学力向上フロンティアスクール事業中間報告書

都道府県名	和歌山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	有田市保田中学校					
	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	３	３	１０	
生徒数	５８	７５	８１	３	２１７	２２

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「情熱を持って学び『確かな学力』の向上を目指す生徒の育成」
――――　個を生かす学習指導を通して　――――

２．内容と方法

（１）実施学年・教科

・ 全学年・専門教員がいない技術家庭を除く必修全教科及び選択教科
全教員で、全校生徒を対象として、その研究実践を学校全体の取り組みとすることなくして生徒の学力向上を図れないと考えた。

（２）年次ごとの計画

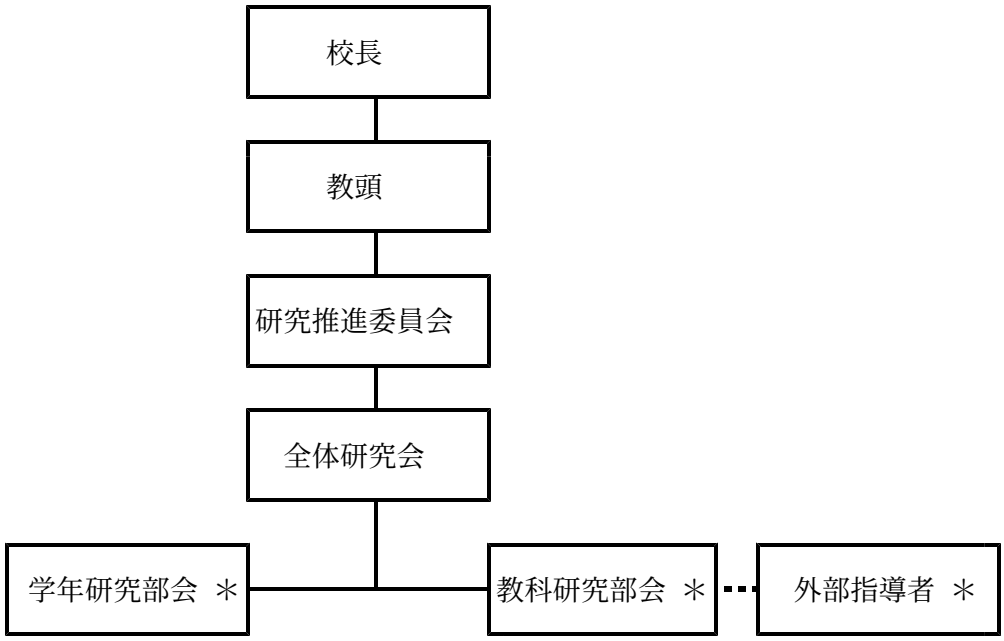
平成14年度	○テーマ 「情熱を持って学び『確かな学力』の向上を目指す生徒の育成」 ○研究の見通し（仮説） 指導法改善、教材の開発、評価の研究を行えば、一人ひとりの生徒が生かされ『確かな学力』の向上を目指す生徒が育成されるであろう。 ○研究の内容・方法 ・少人数授業・習熟度別学習など、きめ細やかな指導法の研究 ・補充的学習・発展的学習の教材開発 ・指導と学習の改善に生かす評価研究 上記３つの研究推進のため、３つの研究部会を設置する。それぞれが専門的

	に研究を進めながら、同時にそれぞれの研究の成果を持ち寄り統合的に研究を押し上げていく。 また『確かな学力』の要素は何かを研究し、目指す学力を具体的にとらえることも必要であり、全体研究会で検討し、推進していく。 各教科の評価規準の策定により、生徒の学習と指導の改善を進める。

平成15年度	○テーマ 「情熱を持って学び『確かな学力』の向上を目指す生徒の育成」 ○研究の見通し（仮説） 生徒一人ひとりを生かす指導法研究・教材開発・評価研究を行えば、基礎・基本の定着・主体的学習意欲の形成・個性の伸長が図られ、確かな学力の向上が実現する。 ○ 研究の内容・方法 個の学習進展状況に応じた教材・指導法・評価を、有機的に関連させ統合的に実践するための研究をすすめる。各教科において教材・指導法についての深さ・広さを追求し、研究員全員の学習指導の力量を高める。 上記の研究目的を達成するために、指導法改善・教材開発・評価研究を独立させて研究を進めるのではなく、統合的にとらえる。一斉授業と少人数・習熟度別学習の前年度よりも後者の授業にシフトさせる。<u>また研究授業を各教員が年間１０回を目標に実施し、具体的・実践的に研究を進める。その際研究の実効を挙げるため外部指導者制を採用する。</u>（下線部は追加記述部分：具体的な授業実践こそが、研究に実効があると判断、新規に計画実施している。）

平成16年度	○テーマ 「情熱を持って学び『確かな学力』の向上を目指す生徒の育成」 ○研究の見通し（仮説） 生徒一人ひとりを生かす指導法研究・教材開発・評価研究を行えば、基礎・基本の定着・主体的学習意欲の形成・個性の伸長が図られ、確かな学力の向上が実現する。 ○ 研究の内容・方法 より個に応じた指導を実現するための授業形態の形成までも視野に入れて、前年度に引き続き、教材・指導法・評価の統合的な研究を授業実践により、深めていく。その際、具体的な年間の指導と評価の計画作成・努力を要すると判断された生徒への対応や手だてを充実させるための全校的な取り組み・学力向上の進展状況調査及び生徒・少人数授業の教科の拡大等についても確実に実施し、仮説の実証を図っていく。

（３）研究推進体制　　フロンティア事業に関する実践研究組織図



＊平成１５年度より採用された部会等

学年研究部会・・学年に関わる教科指導者が、教科を超えて生徒の学習状況等について情報交換を行い、研究推進に供する。

教科研究部会・・外部指導者を迎え、各教科ごと、一人ひとりの教員が年間１０回研究授業を実施し、研究主題を実現するための総合的な助言を受けて、各教科での研究を深めるために設けた。

外部指導者・・教科の専門性について見識の高い、大学教授・現職または元の小中学校校長・教頭・教員に指導助言を、研究授業（年間１７０回）ごとに、各教科の授業実践や研究の進展具合について指導助言を頂いている。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

授業の質の変容

・評価規準の精選・努力を要する生徒への指導のてだての整備・個にねらいをしぼる授業展開及び教材の開発を含む総合的な研究授業を、すべての教員が年間１０回実施することで、大幅に教員の指導力量と授業の質が向上しつつある。

・その結果、個々の生徒の授業での実質的な学習密度が高まり、例えば１５年４月実施の英語科の観点別絶対評価問題では、２年生で全国平均６０点のところで、学年平均

はほぼ８０点となり、２０点上回る結果が出ている。
・習熟度別授業への生徒の評価は、１５年３月の生徒アンケートでは、「よい」が８５％、「学級の一斉授業のほうがよかった」は１５％であったが、１５年７月のアンケートでは「よい」が１００％となって、意識の変容がみられた。
・予習課題、授業、復習課題、小テスト、単元末確認テスト等を組み合わせ、繰り返し学習を実施し、基礎・基本の定着が強化されてきた。
・国語・社会等発言を重視した授業では、発言力・表現力が伸び、論理的・科学的な思考力もついてきている。

２．今後の課題

・一部教科でスタートしているが、本校独自の「個を生かす指導と評価の年間計画」を全教科で策定していく必要がある。そのことにより指導の系統性を綿密に構築することが重要と考えている。
・Ｂ規準に達しない生徒に確実に対応するための、基礎・基本の定着を徹底する授業や個別補充指導等のあり方を研究し、具体的に実践する必要がある。
・そのための一つの方策として、基礎基本学力育成タイム（仮称）を教育課程の中に編成していく。このことについては、個々の生徒が十分に習熟するための指導を受ける場所と時間を確保する予定。
・少人数授業を５教科に拡大していく。個に応じるためには、一斉授業・ＴＴ授業・習熟度別学習・グループ学習・少人数授業等、多様な指導方法や形態を効果的に、運用する必要があるが、特に少人数授業については現状は不十分であると考え、これを拡大する。そのための授業時間割や指導体制等を考慮に入れた教育課程を編成する。
・家庭学習の充実を図るための、具体的な方法を検討し実施する。放課後の時間帯を活用した指導体制を含めて、より自主学習の力を育成する必要がある。
・生徒の学習意欲の継続、個を生かす指導のために小中学校の連携強化を図る。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・第１回観点別絶対評価テストの実施：
　目的　＝　全国的な学力水準と本校生徒の学力の現状分析及び以後のテストとの比較とする基礎資料となる情報の収集。全学年で実施。
　内容　＝　前年度までの学習内容に関しての出題で、その到達度を算出するもの。
　実施時期　＝　平成１５年４月
・第２回観点別絶対評価テストの実施：
　目的　＝　生徒の学力向上の実現状況を、第一回のテストと比較検討しながら分析する。
　内容　＝　今年度学習した内容を含むテストで、その到達度の算出するもの。

実施時期　＝　平成１６年１月実施

・学習意識調査：

授業・学習に関わる生徒の意識を調査するもので、第１回は平成１５年１月実施。第２回は平成１５年１２月実施。第１回・第２回とも同一の質問内容で、意識の変容をみることが第２回の目的。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第２年次研究発表会の開催

・開催時期：平成１５年１２月１２日（金）１３時～１６時３０分

・場所　　：有田市立保田中学校　各教室

・対象　　：有田地方小中学校及び近隣地方の小中学校教員・
学校関係者（保護者・ＰＴＡ役員・学校評議員・自治会）【１５０名出席】

・内容　　：技術家庭を除く全教科の研究授業及び研究協議・研究の概要説明

・目的　　：・研究経過の発表と意見交換による研究成果の共有
・研究成果資料の配付

・フロンティティーチャー　：県中学校教育課程研究協議会（平成１５年８月）においとしての研究成果普及活動：て取り組みの発表を行った。

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　■１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■ＴＴによる指導
□その他

【研究教科】」　■国語　■社会　■数学　■理科
■外国語■音楽　■美術　□技術・家庭
■保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無